

足利高・足利女子高新校 新校舎等整備基本計画の概要

令和2(2020)年3月 栃木県教育委員会

1 基本計画策定の趣旨

新校舎等の整備方針や施設規模、諸室計画、配置計画など、基本的事項について取りまとめ、基本・実施設計の指針とするもの。

2 統合新校の基本的枠組み

- (1) 設置課程・学科等 全日制・普通科・単位制・男女共学
- (2) 各学年定員見込み 240人(6学級)

【参考】進学に重点を置く単位制の教育課程イメージ(第二期県立高校再編計画より)

- ・1年次は、必履修科目を中心に学習。
- ・2、3年次は、進路実現に向けた応用力向上のための科目や探究心を高める発展的な内容の科目など、幅広く開設された科目から選択して学習。

1年次	必履修科目を中心に学習(数学・英語等で学習習熟度別少人数授業を展開)	
2年次	必履修科目等	選択科目
3年次	必履修科目等	選択科目

一般的な学年制の普通科よりも選択科目の割合が大きい。

3 整備計画

(1) 整備予定地

足利市有楽町(足利女子高校敷地及び足利市民会館敷地等) 約40,100㎡

(2) 整備方針

新校の基本的枠組みに基づき、標準的な施設を確保するほか、以下の点を踏まえて整備。

① 特色ある学校づくりを推進するための施設

単位制の特色を十分に発揮できるよう、少人数学習や幅広い選択学習等が円滑に行える施設や、科目選択履修の支援などガイダンス機能の充実に必要な施設を整備。

② 生徒の主体的な学習活動を支援するための施設

生徒の学習成果の発表・討論のための場や自主的・自発的な学習を促すための空間など、新学習指導要領が重視する「主体的・対話的で深い学び」を支える施設を整備。

③ 快適性やユニバーサルデザインに配慮した施設

生徒の学習及び生活の場として快適な環境を確保するとともに、障害のある生徒等が利用しやすいように、ユニバーサルデザインに配慮した施設を整備。

④ 安全性を備えた施設

防災性や防犯性など、十分な安全性を備えた安心感のある施設を整備。

⑤ 時代の要請に柔軟に対応できる施設

将来の教育内容の変化等に対応して、空間構成の変更や設備・機器等の更新が容易に行えるような柔軟性の確保や、施設の長寿命化を考慮した施設を整備。

⑥ 環境に配慮した施設

再生可能エネルギーの導入や木材利用など、環境負荷の低減に配慮した施設を整備。

⑦ 景観に配慮した施設

良好な景観や町並みの形成にも配慮した施設を整備。

(3) 施設規模等

① 校地の使用区分

- ・建物敷地及び駐車場等面積 約 18,900 m²
- ・運動場面積 約 21,200 m²

② 建築物面積等

項目	構造	階数	延床面積	建築面積
校舎	R C造	3階	約 8,320 m ²	約 2,770 m ²
体育館	R C造一部S造	一部2階	約 2,390 m ²	約 2,220 m ²
武道場	S造	1階	約 400 m ²	約 400 m ²
運動部室棟	W造	2階	約 400 m ²	約 200 m ²
駐輪場・屋外トイレ他	S造	1階	約 880 m ²	約 880 m ²
計			約 12,390 m ²	約 6,470 m ²

(4) 諸室計画【特長的な施設】

講義室	少人数授業や選択科目の授業に柔軟に対応できる複数の講義室を整備。
大教室	生徒の学習成果の発表等の場として、1学年全員が収容可能な大教室を整備。
自習室	生徒一人一人が主体的に活動できる自学自習の場として、自習室を整備。
体育館	バスケットボールコート4面を配置できるアリーナを備えた体育館を整備。

(5) 配置計画

運動場への日照等を考慮し、主な建物は敷地北側に、運動場は敷地南側に配置。

4 整備スケジュール及び概算事業費

(1) 整備スケジュール

区分	年度	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)
仮校舎整備(現足利高校) ・校舎改修工事 ・仮設校舎賃借	設計	→				
	工事		→	新校開校		
既存施設解体 ・足利市民会館 ・足利女子高校校舎	設計	→				
	工事		→			
新校舎整備 ・建築工事 ・外構工事	基本・実施設計	→				
	工事		→		→	移転
	設計		→			
	設計・工事		→	賃借期間		解体

(2) 概算事業費

・新校舎設計費、調査費	約	3億円	
・新校舎建築工事費	約	58億円	
・新校舎外構工事費	約	6億円	
・仮校舎整備費、備品購入費他	約	3億円	
計	約	70億円	(既存施設解体費は除く)